

# 多摩区老連

## 第28号

多摩区老連会報 第28号 平成23年3月25日発行  
発行代表者/多摩区老人クラブ連合会 藤原 司



### お年寄りのコミュニティの再生に向けて 老人クラブが目指す有縁社会

多摩区老人クラブ連合会 会長 藤原 司

今冬は大寒波到来、雪国は豪雪に悩まされ、都会では降雨もなくカラカラ天気乾燥注意報、学校は流感で休校、今年の風邪は高齢者には罹らないとのご鞭撻で少しあんしん安心。雪国では大雪雪に孤立する高齢者の暮らし報道に心痛み、学者やマスコミで騒ぐほど

「地球温暖化」って本当だと、春到来を待ち望む年寄であります。また、国会での新年度予算審議に向けての大論戦に、政党同士の「利害対立」「政治とカネ」の問題だけ、これで善いのか国民が疑問や諦めを持ちつつ、コタツにもぐりながら、国会中継を視聴し過ぎている、暇な年寄りの今日この頃であります。

会員の皆様には寒さにもめげずに、地域での活動に益々のご健勝とご多幸をお喜び申し上げます。いつも多摩区老連の事業にご協賛を賜り、深く感謝致しております。

お陰様にて平成22年度の事業や行事も、計画通りに無事に進捗しており、平成23年度に向けての活動計画も、着々と進行しております。すことを、先ずは「報告申し上げ

ます。一昨年はアメリカのサブプライムローンに発したリーマンショックに世界経済同時不況が起こり、昨年はギリシャの財政破綻の報道に接し、輸出頼みの日本経済は円高の追い打ち、ますます凋落の一途であります。これに対して政府は日本経済回復傾向にあると言いますが、依然デフレから脱却できず、新年度予算も赤字国債40兆円を発行して、収入を上回る国債という借金、その為に日本の国債の格下げ問題が発生、これに首相の能天気発言、民主党のマニフェストはどうなったの？と、国民はやきもきして怒っています。昨年の「多摩区老連会報26号」において「無縁社会」について記したところ、大変な反響を頂きました。日本社会のコミュニティはこれで良いのか、人間は生まれた時から人生の終焉まで、総べて「縁」に関係し、生活をしています。

### 日帰り白内障手術

2007年の暮、私は、ベトナムのハノイから数百キロ内陸にあるティンクワンというところでポランティアの白内障手術を行っていました。生活がけつして裕福ではないため、白内障の手術を受けることができず、失明してしまおう人たちに、日本から持っていった医療材料や手術機材を用いて、無償で手術を行います。

白内障の手術は、以前は、水晶体を丸ごと摘出する方法をとっていたために、大きく傷口を作る必要がありました。現在では水晶体を目の中で細かくしてから吸引する方法に変わったことで、傷口を小さくすることができ、術後の視力の立ち上がりも早く、感染に強いものになっています。

その一方、手術装置や使用する顕微鏡など、高価なものが必要となったため、ベトナムではこのような近代的な手術は、ハノイのような都市部でのみ行われていました。地方に至っては、従来の手術方法でさえ一部の裕福な人しか受けられないのが現状でした。手術を行った症例のほとんどは進行しきった白

内障で、すでに水晶体は岩のように硬くなってしまう、そこそこの技術では到底たちうちできるものではありませんでした。また、英語すら通じない現地のスタッフとの手術は、相当にストレスが大きいものでしたが、すべてがうまくいき、たいへん貴重な経験になりました。

実は、先日、当クリニックを受診された患者さまが、そのベトナム級に進行した白内障でしたが、白内障であることを知りながら、手術にどうしても踏み切れなかったか、眼科を受診する機会をみいだせなかったのか、いずれにしても相当に不自由であったろう苦勞がうかがえて、気の毒になってしまいました。

私たち日本人は、幸せなことに、ほとんどすべての人が平等に最新の眼科医療をうけることができます。せつかくよい環境にあるのですから、それを存分に活用していただき、目は早いうちにすっきりさせて、きれいな景色を楽しんでください。そしてまた外来で、その土産話を聞かせていただけるのを楽しみにしています。

あんどう眼科 向ヶ丘遊園クリニック院長  
安藤一郎 (日本眼科学会認定 眼科専門医)



一般眼科保険診療:日帰り白内障手術

www.andouganka.com

あんどう眼科 向ヶ丘遊園クリニック

院長 安藤 一郎 (日本眼科学会認定 眼科専門医)

向ヶ丘遊園駅 北口1分

アトラスタワー(23階建)2階 (エレベーター有)

TEL 044-931-0800